

ミニコミ編集室を

訪ねて

◎倉掛自治連合会（井原市）
くらかけ

第二十四回ミニコミ紙コンクール「印刷の部」で岡山県知事賞を受賞した『倉掛新聞』を発行している倉掛自治連合会のみなさんにお会いするため、井原市市民活動センター二階の倉掛公民館を訪ねました。新聞編集に関わる四団体のうち、倉

掛自治連合会の渡辺研一会長、妹尾一成かすなり副会長、倉橋一郎環境部長、倉掛婦人会の濱田典子さん、守屋ユミさん、倉掛少年団育成会会長の小川泰之さんの六人の方からお話を伺いました（消防井原分団第三部からは欠席）。

倉掛新聞は平成九年五月創刊。地域の情報を届けたいと年間六〜七回発行。中国新聞井原販売所の印刷協力で六百部を地域の各世帯、学校、事業

所、お店、公民館などに配布しています。また同販売所が新聞に折り込みをしてくれるので、さらに約千二百部発行されています。

新聞は四団体それぞれの活動が紹介されており、地域の人々の顔や声が伝わるように工夫されています。編集会議として集まるのは校正会議くらいで、現場で中心となっている方が、原稿を持ち寄り効率よく行っています。それぞれの団体の活動が活発なので、新聞ではそれをまとめていくだけ。記事やレイアウトなどは渡辺さんが中心に行い、新聞のスタイルは創刊以来ほとんど変わっていません。変わったのは、ワープロで作り、写真を貼っていたのが、パソコンで写真を取り込ん



▲後列左から、倉橋さん、渡辺さん、妹尾さん 前列左から、小川さん、濱田さん、守屋さん

で作るようになったくらい。「印刷の部」での受賞でしたが、ほとんどすべてが手作りです。地元を離れた人からも「新聞を送ってほしい」という声があり、ホームページも開設し、更新も渡辺さんが行っています。

以前は少年団育成会、現在は自治連合会の立場で新聞編集に関わる倉橋さんは、毎年少年団のキャンプにゲスト参加し、歌を披露して記事に登場

しています。「地域の人の顔や名前が載ること
 身近に感じてもらえる。これからはいかに満遍な
 く載せていくかが課題」と妹尾さんのお話。創刊
 から九年、渡辺さんをはじめ約半数は最初から関
 わっています。最近役員になり編集に加わられた
 小川さん、濱田さん、守屋さんからは、「以前か
 ら新聞をずっと楽しみにしていた」「知っている
 人が出ている」「魅力がある」「地域のことわか
 る」など、倉掛新聞が地域に浸透している様子が
 伝わってきました。

『倉掛新聞』

は地域
 の方々の
 活発な活
 動を抜き
 には語れま
 せん。倉掛
 自治連合会
 をはじめみな
 さんの活動の
 ますますのこ
 発展を心からお
 祈りいたしま
 す。

(浅海智子 記)

倉掛新聞
 平成17年6月25日発行 第11号(1)

視野拡大図る
 新井原市の施設めぐり
 新井原市、美尾が合併したのを機に見聞を広げようと5月17日、市の協力を得て中コンテでは新井原市施設めぐりを主催し、会員ら約30人が参加した。

県知事賞を受賞
 ミニコミ紙コンクール

おうちの家が引越す
 新井原市、美尾が合併したのを機に見聞を広げようと5月17日、市の協力を得て中コンテでは新井原市施設めぐりを主催し、会員ら約30人が参加した。

大橋工事で一時移転か
 倉掛新聞の発行所である新井原市立図書館が、大橋工事で一時移転する可能性がある。関係者は、工事が完了するまで、新聞の発行に支障が出ることを懸念している。

お疲れ様でした
 倉掛全員の清掃終了
 倉掛新聞の発行所である新井原市立図書館が、大橋工事で一時移転する可能性がある。関係者は、工事が完了するまで、新聞の発行に支障が出ることを懸念している。

ご協力有り難う
 50人が力を結集
 倉掛新聞の発行所である新井原市立図書館が、大橋工事で一時移転する可能性がある。関係者は、工事が完了するまで、新聞の発行に支障が出ることを懸念している。

お疲れ様でした
 倉掛全員の清掃終了
 倉掛新聞の発行所である新井原市立図書館が、大橋工事で一時移転する可能性がある。関係者は、工事が完了するまで、新聞の発行に支障が出ることを懸念している。

ご協力有り難う
 50人が力を結集
 倉掛新聞の発行所である新井原市立図書館が、大橋工事で一時移転する可能性がある。関係者は、工事が完了するまで、新聞の発行に支障が出ることを懸念している。